

令和3年度 学生による地域フィールドワーク研究助成事業
研究 成 果 報 告 書

- ・機関及び学部、学科等名： 富山国際大学 現代社会学部 現代社会学科 経営情報専攻
- ・所属ゼミ： 佐藤ゼミ
- ・指導教員： 佐藤綾子
- ・代表学生： 藤田瑞月
- ・参加学生： 久野有衣香 高森芽生 前田優生 益山理紗 矢内千尋

【研究題目】富山市教育旅行誘致事業について「富山で感じる日本の歴史と未来像」

1. 課題解決策の要約

新型コロナ問題を機に、教育旅行の訪問先見直しの動きがある。テーマ性や班別行動のしやすさが求められる教育旅行において、SDGs にかかわる観光地や、路面電車など公共交通機関が整備している富山は、教育旅行の候補地としての潜在力が高い。そのため、富山県、富山市とも教育旅行誘致に積極的に取り組んでいるが、多くの企画は教育者の視点によるものである。しかしながら、生徒の関心を喚起し、思い出につなげるためには、生徒が楽しいと感じるよう、生徒の視点が軽視されるべきではない。本研究では、教育者、生徒の両視点を満たす情報媒体の開発に取り組んだが、生徒視点に基づく旅行企画はさらに発展させるべきである。将来的には、観光地の学生が情報発信者となり、その情報を訪問者が利用するという双方向の情報プラットフォームなどが出来れば、観光地、訪問者双方の生徒の学びにつながるものと考えられる。

2. 調査研究の目的

富山市は住みやすい街として知られているが、その歴史と未来像につき、観光地訪問を通じて知ることは、修学旅行生が日本の将来を考える好機となる。例えば、常願寺川や神通川の治水、富山の薬売りの発展、北前船にかかわる観光地は、それぞれ自然災害や病気との闘いを克服した歴史、積極的な経済交流により発展してきた歴史であり、現代社会の課題と向き合うヒントとなる。そして、イタイイタイ病を経て環境都市を目指す富山の姿は日本の将来を考える良い機会となるだろう。本研究では、このような教育旅行誘致に貢献する企画のあり方につき検討する。

3. 調査研究の内容

本研究は教育旅行に関する市場調査と、教育旅行の魅力向上のための企画、具体的には旅行に参加する生徒を対象とした情報媒体の作成により構成されている。主な内容は以下の通りである。

I. 教育旅行市場の現状

- (1) 教育旅行に対する学校のニーズ
- (2) 教育旅行に対する生徒のニーズ
- (3) 教育旅行におけるニーズの考察

II. 生徒のニーズに対応する情報媒体の作成

- (1) 生徒のニーズに応える情報媒体の重要性
- (2) 生徒視点の情報媒体
- (3) 生徒視点のガイドマップ作成における工夫

4. 調査研究の成果

1. 教育旅行市場の現状

(1) 教育旅行に対する学校のニーズ

新型コロナ感染症問題(以下、新型コロナ問題)により、2020年以降、多くの学校行事は中止や延期、内容変更を余儀なくされており、教育旅行もその例外ではない。ただし、ゼロ・コロナからウィズ・コロナの流れの中で、教育旅行については中止するのではなく、遠方かつ人流の多い観光地を避け、近隣の旅行先を検討する動きが見られる。以下に、富山市商工労働部観光政策課より提供いただいたアンケート調査結果資料(2020年12月に東武トップツアーズ株式会社富山市店実施、「富山市教育旅行誘致推進事業 教育現場のニーズ調査報告書」、以下、富山市提供資料)を基に、現状につき整理する。

① 新型コロナ問題の教育旅行への影響

富山市提供資料によると、中学教育現場に携わる教員を対象としたアンケートでは、修学旅行の実施に関し、全540校のうち55%が変更なしとする一方、14%が延期、30%が訪問予定地を再検討となっている。ここから、コロナ禍にありながら、極力中止を避け、教育旅行を実施する方法を模索する学校側の姿勢を見ることが出来る。

② 修学旅行に対する学校側のニーズ

では、学校側は修学旅行を実施する上で、何を重視しているのだろうか。図1は富山市提供資料に示された学校が重視する教育旅行における活動内容である。訪問先で重視する活動内容として、最も多かったのは班別学習であった。普段とは違った環境の中でのクラスメイトとの協働という、実践的な面が重視されている。続いて体験学習、平和学習、歴史学習のニーズが高い。このようなニーズに対し、これまで、修学旅行先として多く選択されていたのは京都などの観光地である。確かに京都は歴史文化学習に適しているが、この調査結果は、京都など歴史的な都市だけではなく、その地域を学ぶ意義が認められるならば、班別学習等のニーズを満たすことにより、新たな修学旅行の候補地となりうることを意味している。

全体540校(重視する活動内容)

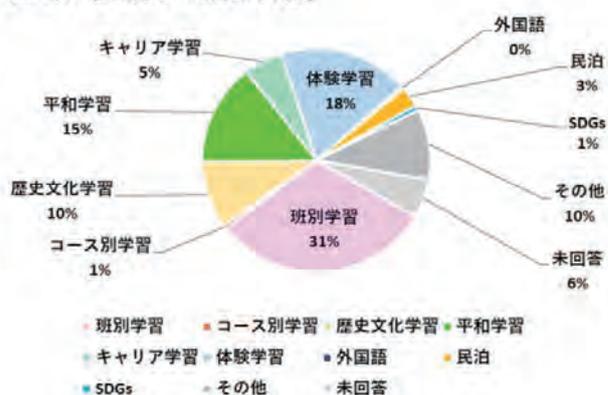


図1:訪問先で重視する活動内容(出所:富山市提供資料)

③ 教育旅行の目的地としての富山1:SDGsと富山

それでは富山は教育旅行の候補地となり得るのだろうか。富山の観光地の知名度は京都などと比較して高くない。しかしながら、富山市がSDGs未来都市に選定されるなど、現在、教育現場で関心が高まっているSDGsを学ぶ観光素材に富んでいる。また、環境都市は一朝一夕で築かれたものではなく、常願寺川や神通川の治水、富山の薬売り、北前船による経済発展、イタイイタイ病など、自然災害や病気との闘いを克服した歴史があってこそのものである。さらに、コンパクトシティ政策により中心地の公共交通機関が整備されている

ことから、修学旅行の班別行動なども実施しやすく、北陸新幹線により首都圏からのアクセスも向上している。これらは前述の、班別行動、歴史文化学習などのニーズを満たすものである。そのため、体験学習のニーズを満たすプログラムを検討することにより、十分、教育旅行の候補地となり得ると考える。特に、SDGsをテーマとした修学旅行については、内容によっては検討したいという学校も多く(図2)、潜在性は高い。

全体540校 (SDGsがテーマの修学旅行の検討)

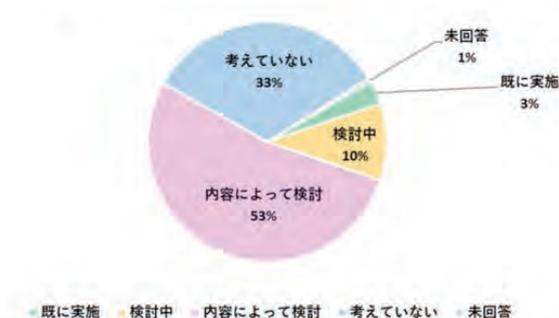


図2:今後のSDGsをテーマにした修学旅行の実施予定(出所:富山市提供資料)

④ 教育旅行の目的地としての富山2:グリーンツーリズムを活用した体験学習

教育旅行の学校ニーズを満たすためには、体験型学習をプログラムに組み込むニーズも高い。体験型学習については、富山県はグリーンツーリズムにも積極的に取り組んでいる。富山県議会は2000年3月に全国初の議員提案による「都市との交流による農山漁村地域の活性化に関する条例」を成立させており、この活動の核となっているのが、NPO法人グリーンツーリズムとやまである。同法人の事務局長野村武史氏他へのインタビュー調査(2021年9月3日実施)によると、グリーンツーリズムを教育旅行に取り込む動きは既にあるとのことである。コロナ禍の感染対策のほか、受け入れ人数の調整等が課題とのことだが、共同作業を必要とする農業体験などは、チームワーク力を高めるだけでなく、地域や環境との関係を学ぶ貴重な機会となる。

⑤ 教育旅行に関する旅行商品および情報提供の現状

富山に教育旅行の目的地としての潜在力があることがわかったが、これに対する商品企画の状況についてはどのようなになっているのであろうか。これについては、既に富山市商工観光課が「富山市で学ぶSDGs教育旅行」と題し、SDGsのテーマに沿って観光地を選出し、体験学習を組み込んだパンフレットを作成するなど、誘致に動いている。具体的には富山市エコタウン交流推進センター・リサイクル企業見学、総曲輪レガートスクエア、富岩水上ライン、松川遊覧船など中心部・岩瀬地域のほか、株式会社タニハタ、富山ガラス工房、富山県立イタイタイ病資料館、源ますのすしミュージアムなどを紹介している。また、体験型のプランとして地引網体験や森林セラピー、『水の王国』体験プログラムなども組み入れている。そして、富山県も既に「富山県教育旅行 Guide Book」を刊行しており、班別、体験などカテゴリーに分けながら、県内観光地の紹介をコンパクトにまとめている。

(2) 教育旅行に対する生徒のニーズ

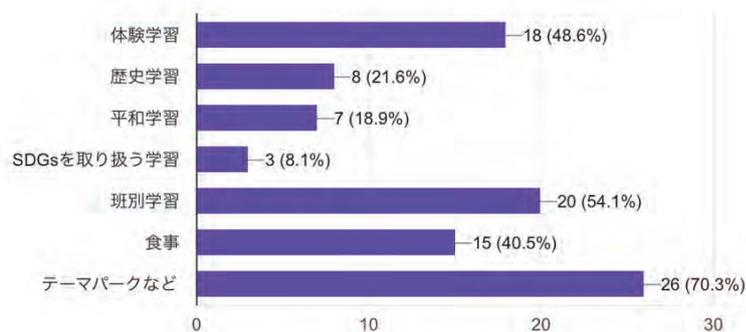
以上、教育旅行に対する学校のニーズにつき整理したが、ここで見落としてはならないのが、参加者である生徒のニーズである。教育旅行であるため、その教育効果は学校が検討するものである。しかしながら、貴重な体験として思い出につなげるためには、生徒のニーズを無視してはいけないのではないだろうか。そこで、本研究では、生徒を対象に教育旅行への期待や、思い出につき調査することとした。

① 生徒へのインタビュー調査

アンケート調査実施に先立ち、2021年8月から12月にかけて、富山県内在住の高校3年生4名、中学3年生3名、大学1年生10名に、修学旅行にて重要視するポイントや、思い出に残ったこと、困ったことなどに関するインタビュー調査を行った。その結果、「訪れた土地の美味しい食べ物を食べたい」、「体験学習が記憶に残った」、「地域の特色あるお土産や食べ物が楽しかった」との意見が寄せられ、最も多かった意見は旅行中の食についてであった。次いでテーマパークなどの娯楽施設、お土産物など、主に班行動を伴う活動について関心が高いことがわかった。

② 生徒へのアンケート調査

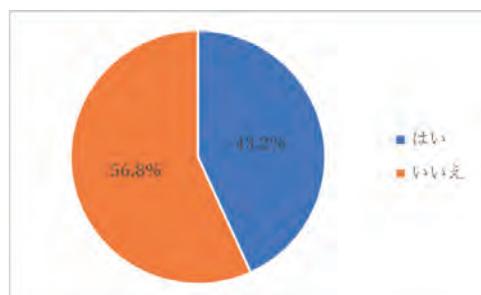
上記を踏まえ、生徒のニーズとどのような方法で教育旅行誘致に取り組むべきか把握するために、生徒へのアンケート調査を行った。なお、ここでは新型コロナ問題により、中学校や高校におけるアンケートの実施が困難であったことから、修学旅行を経験し、ターゲットに近い年齢層である富山国際大学の1年生37人を対象とした。



【設問】修学旅行で最も思い出に残った出来事はなんですか。(複数選択可)

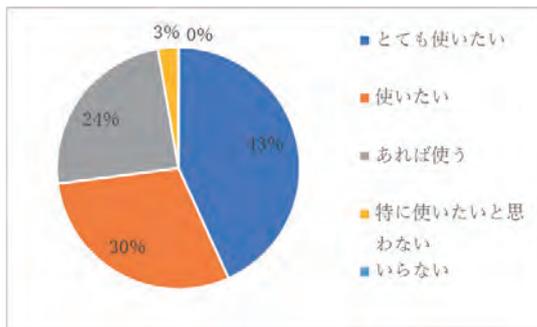
図 3: 教育旅行で思い出に残った出来事

図3は、教育旅行で思い出に残った出来事である。体験学習、歴史学習、平和学習などは学校ニーズと共通するものであるが、生徒のなかではテーマパークや食事など、楽しさに関するニーズが高いことがわかる。テーマパーク、食事などは自由企画に組み込まれた内容であると思われる。そうであれば、生徒はどのように情報収集をしたのであろうか。図4は教育旅行における情報端末の利用に関する問いである。ここで示される通り、スマホやタブレットの使用が認められていないケースも多く、情報収集手法に制約があることがわかる。



【設問】修学旅行ではスマホやタブレットなどの、現地の情報を調べることのできる電子端末の使用は認められていましたか。はい又はいいえで回答ください。

図 4: 修学旅行における情報端末の利用状況



【設問】修学旅行で活用できそうな、生徒向けのパンフレット/ガイドマップがあれば使用したいか。

図 5: 修学旅行におけるパンフレットのニーズ

そのため、生徒が修学旅行でより満足感を得るためには、情報収集手段の拡充が必要なのではないかと考え、電子媒体以外のパンフレットの有用性につき質問をしたところ、図 5 の通り高い関心が見られた。

II. 生徒のニーズに応える情報媒体の作成

(1) 生徒ニーズに応える情報媒体の重要性

教育旅行市場に関する市場調査からは、SDGs にかかわる学習素材に富み、公共交通の利便性も高い富山は、新たな教育旅行の魅力的な候補地であることがわかった。そして、これに対応する旅行プランは既に富山市商工労働部観光政策課等により、プロモーションが進められているところである。ただし、これらの企画は、主に学校という、教員者視点で検討されたものと思われる。しかし、教育旅行を生徒の思い出につなげ、より充実したものとするためには、生徒のニーズを満たす工夫も必要なのではないだろうか。

その一つの方策として、生徒のニーズを満たす情報提供について検討したい。修学旅行に関し、電子端末の利用可否は学校によって差があり、情報アクセスが制限される場合、生徒に提供されるのは教育効果に直結する情報が主となり、学生の楽しさが考慮されない可能性がある。そのため、ここでは、学校、生徒の両方のニーズを満たす情報媒体について考案する。

(2) 生徒視点の情報媒体の概要

情報媒体の作成にあたり、学校、生徒の両者からのニーズが高かった項目が班別学習である。そのため、情報媒体では、班別活動に有用な情報提供することを想定し、掲載項目の絞り込みを行った。そこでは、学校ニーズ、班別行動における交通アクセス、学生の楽しみにつながる情報であることを意識し、以下の 4 点に注目し、県内エリアの絞り込み、観光施設の洗い出しを実施した。1 歴史的価値の有無、2 現在の富山をよく感じ取れる場所であるか、3 未来的要素 (SDGs、コンパクトシティ) について見聞を深められるか、4 公共交通を利用し無理なく周れる範囲かという点である。この視点をもとに、富山市、高岡市、射水市、氷見市の観光施設等を視察し、候補を絞り込んだ。そして、教育的効果、食事等の楽しみという両方の側面から情報を提供する媒体を作成した。

(3) 生徒視点のガイドマップ作成における工夫

ガイドマップ作成においては、教員、生徒、保護者が共に関心を寄せる、班別行動で活用できるガイドマップとなるよう意識した。実際に修学旅行として訪問先を訪れるのは生徒であることから、まずは生徒が富山に興味を持ってもらわなければならない。そのために、施設紹介を生徒の興味を引くような切り口に変えた。そして、富山県内で歴史(過去)、現在、未来を学ぶという観点から、タイムトラベルをしているかのような体験をすることができるかと捉え、「TOYAMA TIME TRAVEL(富山タイムトラベル)」と題したマップとした。修学旅行本来の目的である歴史、未来学習も損なわないように訪問地の施設を楽しく、わかりやすく巡るように紹介文や使用する写真を工夫したほか、生徒たちが特に関心を寄せる食や体験施設に焦点を当てた内容となって

いる。

なお、訪問先でスマートフォンやタブレットの使用が可能となっている学校も多いことを加味し、SNS との連携も行った。ガイドマップに載せきれなかった情報を、当研究班オリジナルの Instagram アカウントで発信する。マップと Instagram アカウントを連動させ、Instagram のストーリーハイライト機能を活用し、各エリアのフィード投稿へと紐づけることで利便性の向上に努めた。また、現地で手に持って歩きやすく、なおかつ生徒でも容易に手に入れることができるよう、サイズもコンパクトにした。このガイドブックが、教育旅行における学びと思い出の選択肢を増やし、新たな価値を創出することをする。

5. 調査研究に基づく提言

教育旅行市場の調査からは、学校側のニーズとして、体験学習やテーマ性が求められていること、班別行動が可能であることなどが重視されていることがわかった。これらに関し、環境への取組、コンパクトシティ政策など SDGs に関するストーリーが豊富であり、かつ、路面電車など、充実した公共交通機関の利用で班別行動が可能な富山の教育旅行の目的地としての潜在性は高い。このことについては既に富山県、富山市とも認識するところであり、教育旅行誘致に向けた積極的な動きが見られるところである。しかし、これらの旅行企画は教育者の視点によるところが大きい。

そこで、本研究では、生徒の満足度向上に焦点をあてた情報媒体の開発に取り組むこととした。そこでは、歴史的背景等の教育的な情報だけではなく、楽しさにつながる食などの情報も加えたほか、インスタグラム等との連動で、多様な情報にアクセスできるようにした。

この情報媒体の意味するところは、単に生徒の楽しさを追求するものではない。生徒が楽しいと感じ、生徒の思い出につながることは、その旅行地で取り上げられたテーマへの関心を深めるものであり、より大きな教育効果につながるものとする。

また、今回は教育旅行の参加者向けの情報提供という、一方通行の情報提供となっているが、将来的には観光地の生徒がガイドマップや情報を作成し、観光地を訪問する生徒に情報を提供することも可能なのではないだろうか。また、SNS を活用すれば、情報を蓄積させ、深化させることも可能と思われる。このように、今後は生徒視点に基づく教育旅行に関する多様な取組みが推進されるべきであるとする。

6. 課題解決策の自己評価

本研究では、「生徒目線の教育旅行」という切り口を見出したという点に意義があるとする。しかしながら、新型コロナ問題の影響で、中学生、高校生との意見交換を十分に行えなかったことや、情報媒体の開発が、我々から生徒に向けた情報発信にとどまり、双方向型の情報媒体の開発まで至らなかった点が課題である。この点については、今後、さらなる研究を進めていきたい。

以上